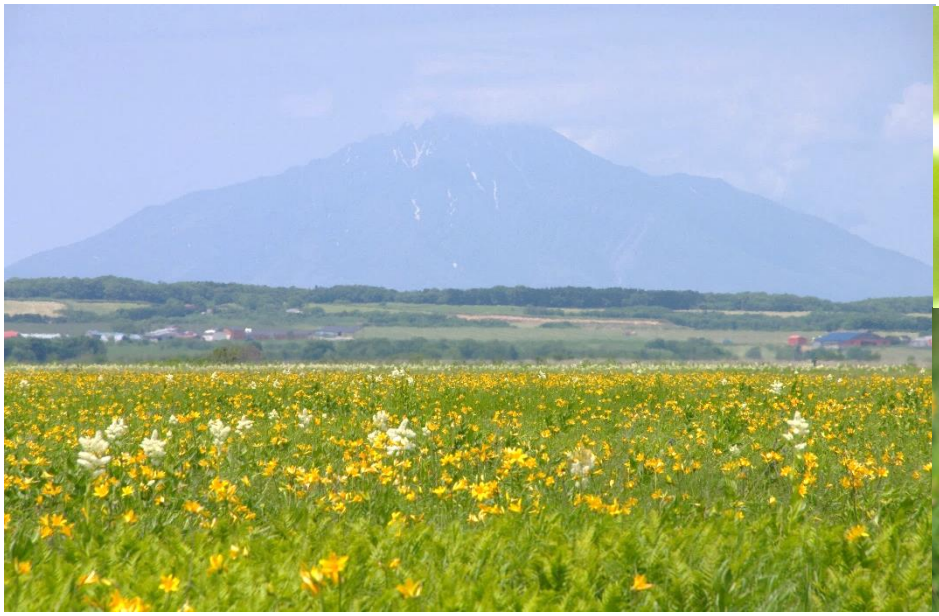
認定NPO法人サロベツ・エコ・ネットワーク　ニュースレター　2019 年 7 月 31 日発行

サロベツ原野だより

Vol.13 －No.2

〒098-4122
北海道天塩郡豊富町
字豊富東２条５丁目
TEL (0162)82-3950
FAX (0162)73-0360
ホームページ URL http://www.sarobetsu.or.jp　E-mail: info@sarobetsu.or.jp



＜今年のサロベツは霜害の発生もなく、５年ぶりにエゾカンゾウの黄色の絨毯が現れ、コバイケイソウとの共演も見事でした。＞

目　次

１．お知らせ……P.1
２．特集
（１）なまらサロベツ∞クラブ!!…… P.2～3
3．活動報告
（１）豊富温泉定期体験プログラム…… P. 4
（２）稚咲内海岸清掃…… P. 5
（３）第 16 回定期総会報告…… P. 5～6
4．コラム
（１）サロベツ今昔物語……P.6
（２）とよとみの民話…… P.6～7
5．事務局からのお知らせ
（１）湿原センター情報……P.7
（２）サロベツ四季の旅……P.8

※今号はコラム「私とサロベツ」「おすすめ本紹介」はお休みします。ご了承ください。

1．お知らせ

サロベツカレンダー販売開始します!!

来年１月スタートのカレンダーが完成しました！サロベツの四季の魅力、自然情報が満載です♪サロベツ湿原センターほか、豊富町内の観光施設でご購入いただけます。また、遠方の方はお電話やメールでご注文いただき、郵送もできますので、事務局までお気軽にご連絡下さい。ご家庭用やお土産、プレゼント用にぜひお求めください。

サイズ：開いた状態でA３タテ

価格　：　１部　800 円（税込）

2．特集
（１）なまら!!サロベツ∞クラブ 2019

吉原　努（幌延町・ＮＰＯ職員）

2019 年度の「なまら！！サロベツ∞クラブ」（以下、なまサロ）の活動がスタートしました。2009 年から始まった「なまサロ」は、当法人の環境教育活動の柱として、サロベツ湿原を舞台に自然体験活動や他地域の湿地で活動している子ども達との交流活動などを実施しています。登録人数は年々増え、今年は 20 名（新規８名）となりました。嬉しいことに町外からの参加もあり、少しずつ裾野を広げております。

今年度は年 7 回の活動を前田一歩園財団の助成金で活動します。春は木道散策、夏はフットパス散策と子どもキャンプ、秋はどんグリーンの森づくり、冬はスノーシューハイク、その他環境省の子どもパークレンジャーの活動として年 6 回の活動を実施する予定で、いずれも湿原や地域の自然に関わる活動を盛りだくさんで実施します。

実施済みの活動をいくつかご紹介させていただきます。

５月 18 日に春の木道散策を実施しました。子ども達と図鑑を片手に、心地良い春の陽気に包まれながら木道を歩きました。ミズバショウやエゾノリュウキンカ、タテヤマリンドウなどが可憐に咲いており、少しずつ湿原が彩る様子や、野鳥たちの囀りにも耳を傾け、春のサロベツ湿原を満喫することができました。

木道を行く子供たち

観察する子供たち（左）とタテヤマリンドウ（右）

６ 月 ８ 日は浜頓別町でクッチャロ湖ジュニアアカデミーの子ども達と一緒に砂金堀り体験を実施しました。会場となったウソタンナイ川は、1898 年に砂金が発見されゴールドラッシュを迎えると、1900 年には約 800g もの金塊が発見されたそうです。そんな夢のような話を聞き、大きい砂金を採るべく、実際に川に入って砂金を掘る「川掘り」と水槽の砂の中から砂金を探す「水槽堀り」を体験しました。

川堀りをする子供たち

水槽掘りをする子供たち

特に川掘りは本格的な作業となり、「ゆり板」と「カッチャ」という道具を使い、さらに地域の達人にレクチャーしていただき、砂金を探します。「カッチャ」で砂を採っては「ゆり板」で揺する

作業を辛抱強く繰り返すと、１人２粒から３粒ほど砂金が採れ、みんな大喜びでした。豊富町では体験出来ない貴重な機会となりました。

集合写真（浜頓別町ウソタンナイ砂金掘り公園にて）

６月29日は子どもパークレンジャーの活動を実施しました。サロベツ湿原の下の世界はどうなっているのか！？というテーマで、湿原を形成する泥炭について学ぶため、まず木道を歩きました。霜害を免れ、５年ぶりに咲き誇ったエゾカンゾウやコバイケイソウなど初夏の花々を観察した他、同じ湿地でも少し環境が変われば植生が変化する様子をそれぞれノートにメモを取っていました。湿原センターへ戻り、ぬれている泥炭、乾いている泥炭、土、海岸の砂の４種類を、色、手触り、重さ、匂い、燃えるか否か、生き物がいるか否か調べました。乾いている泥炭に火を付けて燃やす実験なども行い、それぞれの性質について詳しく学ぶことができたようです。

泥炭について学ぶ子供たち

また泥炭水を使って習字をする新しい取り組みも実施してみました。墨汁のようなはっきりとした色は出ませんが、泥炭の色味が上手く出て、「令和」「泥炭」とそれぞれ書いていました。作品については湿原センターで展示する予定です。中々味があって面白いですよ。大人のプログラムでも活用できそうです。

泥炭水を使って習字を行う子供たち

活動紹介はこれくらいにして、私がなまサロに関わって８年が経ちました。サロエコに入った当初、参加者はたった５名と少なく、この子達が小学校を卒業したら大変なことになると思い、始めたのが小学校の朝の会での参加呼びかけ。各クラスを周り、サロベツ湿原やなまサロの活動をPRします。すぐに効果が現れ、じわじわと参加者が集まり、今や毎年20名が継続的に参加する活動となりました。

なまサロ初期メンバーで行ったカヤック（2011年11月）

先日、初期の頃に参加していた子どもが高校生となり笑顔で訪ねてきました。少し照れがあった様子でしたが、たくましく育った姿をみると何だか感慨深くなり、肩をポンポンと叩き、立派に成長したなあと言ってあげました。KODOMOラムサールの全国大会で一緒に琵琶湖へ行ったのを思い出されます。

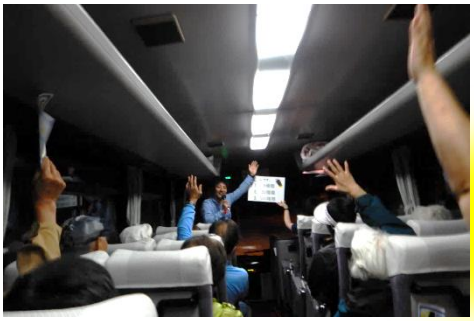
いつの日か、なまサロ出身者とサロベツ大宴会でも開催したいですね。

3. 活動報告
（1）豊富温泉定期体験プログラム

嶋崎 暁啓（豊富町・ＮＰＯ職員）

豊富町には「豊富温泉」という素晴らしい温泉があり、毎年多くの湯治客や観光客が全国各地から訪れています。さらには、サロベツ湿原をはじめとする自然環境に恵まれた地域です。一方で、温泉と観光地との間の交通の便が悪いなど、観光面では様々な課題も抱えています。

そこで、豊富温泉の湯治客・観光客の方が参加しやすく、地域の自然の魅力に触れられる企画として、当法人が「元気な湯治体験プログラム」（豊富温泉活性化協議会／事務局：豊富町商工会からの委託）の運営を行い、夏はホタル、秋は渡り鳥、冬はスノーシュー、というようにサロベツの四季をお楽しみいただいています。



７月 19 日（金）には、今シーズン第一弾企画として「サロベツの夏の夜、さあ行こう！日本最北のホタル観察ツアー」を実施しました。

ホタルの観察ツアーは毎年人気の企画で、今回も定員 20 名に対して、定員オーバーとなる 26 名の参加があり、大好評でした。「豊富温泉・湯の杜ぽっけ」に集まった参加者は、バス車内でホタルに関するクイズを楽しみ、「豊富町自然公園」に着くとそれぞれカウンター（計数器）を片手に、ガイドの案内でサイクリングロードを歩いてホタル観賞をしました。ツアー当日は気温・湿度が高い絶好のホタル日和！ホタルが光りながら目の前を飛ぶ幻想的な光景が何度も見られ、最終的に 40～50 匹のホタルを見ることができました。

さらに、途中からは星も見えてきたので、簡単な星の解説としていると、人工衛星や流れ星も見られ、ラッキーでした。ホタルが生息している環境をこれからも大事にしていきたいですね。今後は秋・冬にもサロベツの自然を満喫するイベントを企画していきますので、どうぞお楽しみに！

＜ おまけ ～自然ガイドが好評です～ ＞

今シーズンはサロベツ湿原センターの木道を案内する有料のネイチャーガイドも好調です。４月以降、この原稿を書いている 7/20 時点で、23 回の有料ガイドがあり、前年同時期の 11 回を大幅に上回っています。このことは、誰でも無料で歩ける木道であっても、きちんとした有料ガイドを頼みたいというお客様のニーズがあることを示しており、私たちにとって喜ばしいことです。

また、サロベツ湿原センターと当法人のホームページを相次いでリニューアルして、ガイドの情報を分かりやすくしたことや、従来から地道に続けている温泉各宿での告知、雑誌など各メディアでの PR 効果がジワジワとあらわれてきている印象です。冬のスノーシューガイドの人気も高まってきていることを感じます。

サロベツのガイドを依頼されるほとんどのお客様にとって、この地を訪れて湿原の木道を歩く経験は一生に一度のことでしょう。ガイドはそのことを肝に銘じて、そのお客様のために最高のガイドができるように準備を整えています。これからもお客様の期待に応え、さらに期待の上をいくような出会い・発見・感動があるガイドを心がけ、サロベツの自然の魅力を多くの方に伝えていきたいと考えています。

（２）稚咲内海岸清掃

川﨑　正大（豊富町・NPO 職員）

４月 14 日（日）、毎年恒例となっている稚咲内海岸清掃が行われました。当日はあいにくの「曇り空＋強風」という寒い環境となってしまいましたが、豊富町や近隣市町村から過去最高の 105 名の方々にお越し頂き無事実施することができました。

開会式でゴミの分別方法や清掃範囲、注意事項などの簡単な説明を行った後、約７km の区間を清掃するために６つのグループに分かれてそれぞれの担当エリアへと向かいました。冬季に荒れる事が多いと海岸部の漂着ゴミが草原部へも飛散するため、ゴミの量は多くなってしまうのですが、今冬は昨シーズンと比べ荒れる事も少なく、個人的にはごみの総量は昨年よりも少無くなるのではと予想していました。

清掃活動風景

しかし、いざ作業を始まると、見えにくい箇所に引っかかったペットボトルやビニール袋などのプラスチック製品、空き缶、タイヤに至るまで様々な種類のごみを回収し、参加者の皆さまのご協力のおかげで１時間半程度作業でごみの総量は、なんと昨年よりも約 100kg 多い 460kg！４ｔトラックに山盛り４杯分のごみを回収することができました。

トラックに満載のごみ（左）と草原に残されていたゴミ（右）

清掃作業の後は豊富牛乳公社様からご提供いただいた美味しい牛乳が振る舞われたほか、宗谷総合振興局様からもポケットティシュも配布していただき疲れも吹き飛びました。

今年も多くの関係機関・団体や地域の方々のご協力により海岸草原は見間違えるように綺麗になりました。皆様、大変ありがとございました。

参加者集合写真

（３）第１６回定期総会開催報告

川﨑　正大（豊富町・NPO 職員）

総会会場

５月 25 日（土）、第 16 回定期総会が定住支援センター「ふらっと☆きた」で開催されました。昨年度の事業報告、活動決算、今年度事業計画、事業予算については提案どおり承認されました。

また会場からは職員の福利厚生に関する質問や会員数増加に向けた取り組みなどについての質問が出されました。

挨拶を行う吉村代表（左）と報告する田中事務局長（右）

任期満了に伴う役員改選については、４名の方が昨季いっぱいで退任され、今季の役員候補としては新候補含めた 11 名となりました。事務局より全員を新理事に推薦する旨の提案があり原案通りに承認されました。２年間は下記の体制で運営して参りますので、どうぞよろしくお願いいたします。

顧問	：工藤　栄光
代表理事	：吉村　穣滋
副代表理事	：田中　美恵子
副代表理事	：千葉　久
理事	：西島　今朝悟
理事	：川原　清己
理事	：千葉　幸悦
理事	：須賀　勝憲
理事	：泉　美幸
監事	：金子　敬博
監事	：阿部　守

4. コラム

（1）サロベツ今昔物語

～自分の中の昭和史（22）～

野口　多美治（豊富町・郷土研究会）

昭和 31 年、大学生活にも慣れ、充実した毎日を過ごす。この後、昭和 32 年には自分の身に予期せぬ事態が起きる事になるのだが、この時はまだ知る由もなかった。次号以下で記すことになると思う。

さて、高円寺から吉祥寺までは距離的にあまり遠くはないのだが、毎日ぎゅうぎゅう詰め電車通学は楽とは言えないものだ。

ただそんな中でも、ちょっぴり胸をくすぐる甘い思い出がある。毎日同じ時間帯で乗る電車で前から２両目に必ず顔を合わせる ２ 人の若くて可愛らしい女性が乗っていた。興味津々のこの２人も必ず吉祥寺で下車し何処かへ通っていた。ある日、偶然学校の食堂で遭遇（?）する。なんと同じ武蔵野美大に通う学生であったのだ。驚きもし、嬉しくもあったが彼女たちはデザイン科の学生であり学校で出会う事はまず少ないだろうと思った。

食堂で出会ってからはより意識して電車の中で観察する様になり、２人のうち１人とは目を合わせる機会が多くなったような気がした。また相手もこっちを意識しているような素振りを見せていた。兎に角人間は自分に都合よく解釈する生き物であり若気のいたりとは言え自分もその範疇にあったのは否めない。のちに彼女たちは中国出身者である事がわかった。もちろん、意識していても話す機会などは１度もなかったのであるが、学校生活を謳歌しある意味で充実した１時期を過ごせたのは間違いのない出来事の様な気がしているし青春の１ページでもある。

（～次回へ～）

（2）とよとみの民話

第３集 音吉の杜

北海道豊富高等学校 郷土研究部

第 2 話　梅村さんの夢　（中編）

「うわぁ。これでは作物を植えるどころか、「我々の住むところだって作れないじゃないか。」「これから、どうすればいいのだろう。」「せっかく遠い所をはるばるやって来たのに！」と小作人たちはとても慌てました。梅村さんは内心は動揺したものの、「この土地は本当に素晴らしんだ。水がひい

て、みんなで力を合わせていけば、必ず開拓ができるよ！」と皆を落ち着かせ励ましたのでした。小作人たちもその言葉で元気を出し、やる気が出てきました。「そうだ。梅村さんの言葉を信じて頑張ろう。」しかし、実際その土地での生活は大変な物でした。米やみそも稚内まで取りに行かなければならず、さらに人が背負って兜沼まで運ばなければなりません。家具などは抜海から兜沼まで運ぶのに１か月もかかったそうです。

また、熊も付近に多く出没し、開拓者は落ち着いて畑仕事に精を出すことができません。そんな中で、小作人たちは次第に開拓を　諦めるようになっていきました。「もう、こんな暮らしはたくさんだ。農作物だってみのるかどうかもわからん。「夜には、熊も出るしなぁ。それに冬になったら、どうなるのだろう。」「梅村さんには悪いが、帰らせてもらおう。」

「そうだこの土地では暮らせない。岐阜に帰った方がずっと良い。」こうして小作人たちはだんだんこの土地を離れ、３か月もたたないうちに１戸も残らなくなりました。兜沼に１人残された梅村さんはがっかりしました。

「なぁ、音吉さんこの土地を開拓するのは無理なんだろうか。」「いや、諦めてはいけない。頑張っていけばきっといつか開墾できる日が来るだろう。」

～つづく～

4．事務局からのお知らせ
（１）湿原センター情報

早野 佳織（幌延町・ＮＰＯ職員）

今年はエゾカンゾウがついに ５ 年振りにオレンジ色の絨毯となりました。湿原や海岸草原、旧ビジターセンター跡地周辺なども見事な大群落となり、同じく当たり年となったコバイケイソウと共に咲き誇って圧巻の風景となりました。

普段は湿原センターにいらっしゃらないような地元のおじいちゃんおばあちゃん達、車椅子の方々も多くお越しになり、「素晴らしいですね」とうっとりとしたお顔で話されていたのが印象的でした。さらに開花している間の気温が程良く保ったためか、終わってみればロングランとなり、たくさんのお客様に喜んで見て頂けました。

そんなエゾカンゾウの余韻を残しつつも、サロベツの花リレーはどんどん進み、今は夏のナガボノワレモコウなどと共に秋に咲くミヤマアキノキリンソウやウメバチソウなども同時に咲いています。今年は気温が暖かいせいか、例年よりたくさんお花が咲き、さらに花リレーは例年よりも早めに進んでいます。季節の巡りの美しいサロベツ、その日その時だけの発見や感動が待っていて目が離せません。

秋に咲くミヤマアキノキリンソウ（左）とサワギキョウ（右）

（2）サロベツ四季の旅

サロベツ湿原センターの木道を歩くと野生のランに出会うことができる。何種類も咲いてくる中で一番早く見られるのはハクサンチドリ。その名の通り、たくさんの鳥が勢いよく羽ばたいているような花を咲かせている。

次に咲いてくるのはトキソウとサワラン。トキソウは朱鷺のような淡いピンク色が緑の湿原に美しい。サワランは鮮やかなピンク色をしているが、花の開き方はトキソウと比べて控えめだ。カキランは柿の実を思わせる黄色の花を付ける珍しいラン。

～サロベツ湿原を彩る主なランの仲間たち～

ハクサンチドリ

トキソウ

サワラン

カキラン

コバノトンボソウ

ホソバノキソチドリ

前述のような鮮やかな色で目立っているランがある一方、緑色やクリーム色の地味なランも咲いている。ホソバノキソチドリ、コバノトンボソウ、エゾチドリ。知らなければ見過ごしてしまうかもしれないが、まぎれもなくランだ。

派手なランもそうでないランも、みんな草の陰に隠れてひっそりと、しかし、凛とした気高さを感じさせる佇まいで湿原の中で咲いている。ランにはどこか人の心を惹きつける魅力が備わっている。ランマニアでなくても、サロベツ湿原のランを全て見つけてみてはいかがだろう。

NPO法人サロベツ・エコ・ネットワークとは？

当法人は、サロベツ及び周辺の自然と地域を愛する人々が集い、自然環境の保全活動、調査研究活動及び環境教育活動を通して、自然と人間との共存の大切さを広く啓蒙し、併せて地域の発展、まちの活性化に寄与し、サロベツ及び周辺の豊かで美しい自然を次世代に引き継ぐことを目的として平成 16 年５月に設立されました。

活動の目的にご理解いただき、共に汗を流し、ご協力下さる会員を随時募集しております。あなたの参加が活動を支えます。どうぞご加入ください。

会員になっていただける方は事務局までご一報下さい。申込方法と会費の振込先をご連絡いたします。また、会の運営を支えるご寄附も随時受け付けております。（３千円以上のご寄附は各種税控除の対象となります。詳しくは事務局まで。）

＜7 月 20 日現在の会員数＞

正会員 68 名 ／ 賛助会員 25 団体・9 個人

サポート会員 115 名 ⇒ 計 207 名・団体

※転勤などでお引越しをされた方は、住所変更のご連絡を事務局までご連絡ください。（連絡先は表紙の上部に表示しています）